

体位をかえて、からだをまもる！



A LA CARTE 1

アラカルト

私はツカザキ病院理学療法士として主に4階病棟を担当するとともに、褥瘡対策委員の一員として褥瘡予防や治療に関わっており、この度「第20回日本褥瘡学会学術集会」にて発表させていただきました。

皆さんは褥瘡(床ずれ)とりハビリテーションに、どのような関係があるかご存知でしょうか。

褥瘡が発生する方の多くは自由に身動きが取れない方や脊髄損傷等により感覚障害を有している方がほとんどです。そのような方々と関わる機会の多い理学療法士が褥瘡に対する知識・関心をもつことは必要不可欠となります。卒前教育の中で褥瘡に関する知識はほぼ皆無であり、私自身も委員会の一員になったことをきっかけに「褥瘡とはなんぞや」から学び始めました。

「褥瘡」ってなあに？

じょくそう

幸いにも当院は、医師やWOCN(皮膚排泄ケア認定看護師)の方々から多くの基礎的・専門的知識を学べる環境がアます。理学療法士が得意とする運動学的視点から身体機能や基本動作能力を評価し適切な姿勢調整や動作指導を行うことで予防や治療に結びついていくのではないかと考えています。

例えば創の部位や形状を観察し、どのような姿勢(環境)やどのような動作が原因となっていたかを推測し身体機能と結びつけながら病態像を把握していきます。

仙骨や踵はベッド上での姿勢、坐骨部や尾骨部であれば座位や車いすでの姿勢に問題があることが多く、それらに對し体圧分散用具を用いながら適切な体位変換やポジショニング、良好なシーティング(座位姿勢)を実践して

ツカザキ病院
リハビリテーション科
谷崎雄士

いきます。また理学療法を行っていく中で基本動作能力の改善を図り、動きやすい身体作りや離床機会を増やしていくことで予防や治療に繋がっていきます。評価・予防・治療は互いに関連しており適切な介入が重要となります。褥瘡は、外力(圧力+ずれ力)がかかることで骨からの圧縮により血流(栄養分や酸素を運んでいる)が途絶えてしまい、皮膚や筋肉等にダメージを与え組織が壊死することで褥瘡が発生します。そのまま放置しておくとうる炎症が悪化し、人間にとって必要な水分やたんぱく質などの栄養素が失われ、身体の抵抗力をどんどん奪ってしまいます。また創部が感染した場合、身体全体に菌が回り最悪の場合、死に至ることさえあります。

骨突出部は褥瘡好発部位（出来やすい部位）と言われ特に注意が必要であり、その中で仙骨部の褥瘡が小児を除いては最も多い部位とされています。仙骨部に発生する要因の1つとして、例えばベッドの上でご飯を食べるときやテレビを見る際に背上げ機能を利用する場面があると思います。

この背上げを行う際に身体には重力とベッド面からの作用により下肢側へ押し下げる力が発生し、骨にかかった体重によりずれ力が発生します。

この力を解消するには『背抜き・腰抜き』といった方法が有効とされています。

この方法はベッド面と接触している身体（皮膚）をベッド面から一度離すか、摩擦抵抗が低いグローブ（ビニール袋でも代用可能）などを介助者が装着し、手のひらで対象部位を撫でることで皮膚に加わったずれ力を軽減します。

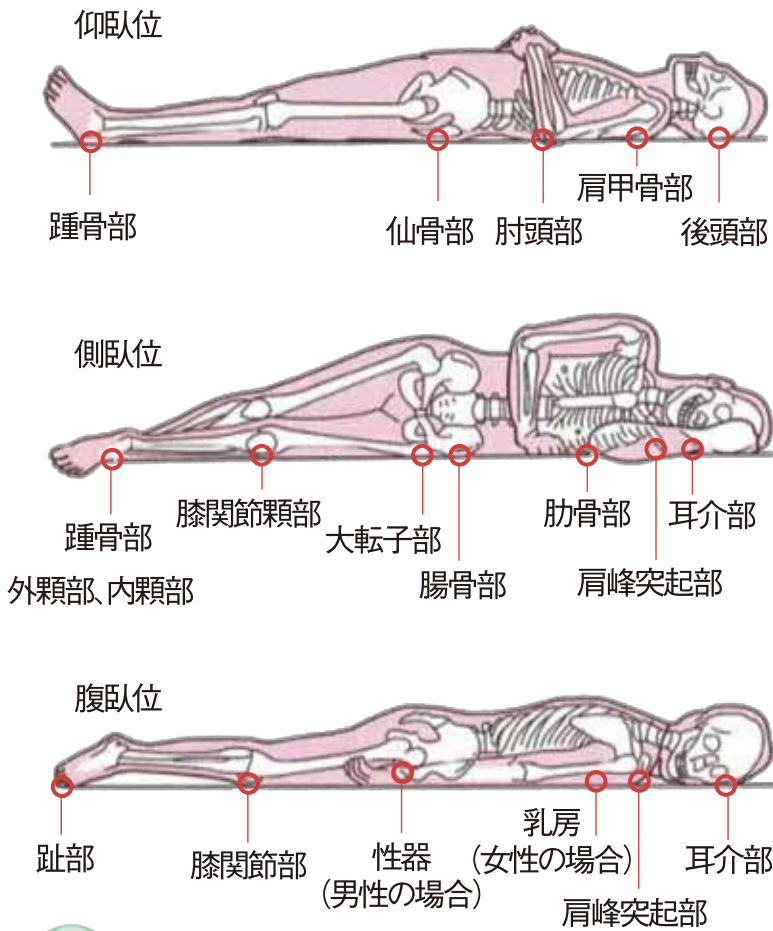
このようなケアを行い予防に努めるとともに、常日頃から皮膚の状態を観察し早期発見・早期治療することで予防

や治療（治る）期間も短く身体への悪影響も最小限にとどめることができそうです。介護保険制度の改定からわかるように、地域包括ケアシステムの構築を推進しており今後、在宅で療養・生活される方が増えていくことが予想されます。

褥瘡有病率・発生率（日本褥瘡学会実態調査委員会：2013）を見ても圧倒的に在宅で生活されている方が多く、在宅療養していく上で見て見ぬふりはできなくなっています。現在は自動体位変換機能が付いた高性能アマットレスや機能性の高い車いす等ハード面は整ってきており、更に

患者訪問褥瘡管理指導料が新設され在宅においても専門性の高い褥瘡ケアが提供できつつあります。このような資源をいかに活用していくかが重要ではないかと考えており、私自身医療者の一員として微力ながら貢献していけたらと思っています。

褥瘡好発部位





A LA CARTE 2



認定社会福祉士(医療分野)を知っていますか？

ツカザキ記念病院 医療福祉・地域連携
認定社会福祉士(医療分野)

岩崎 寛広

ツカザキ記念病院の医療福祉・地域連携室で勤務しております社会福祉士の岩崎と申します。大学を卒業後、複数の医療機関で医療ソーシャルワーカー(以下、MSW)として勤務してきました。

MSWは保健医療機関において、社会福祉の立場から患者さんやその家族の方々の抱える経済的・心理的・社会的な課題を達成するため、支援を行っています。また疾病による休職・復職支援、

社会復帰の促進を図る業務を行っています。

また継続的な治療や支援を安心して受けられるように関係医療機関、福祉施設や行政、司法関係者等と円滑に連携を図ることも大事な役割となります。

具体的には、(1)療養中の心理的・社会的課題の達成、調整援助、(2)退院援助、(3)社会復帰援助、(4)

受診・受療援助、(5)経済的課題の達成、調整援助、(6)地域活動等を行って

います。(社会福祉士はクライアントの困難を「問題」と捉えず、その人の「課題」と捉えます。困難な課題を「解決」するのではなく、共に寄り添い「達成」していくという視点で支援をしています)

「社会福祉士」という資格は、社会福祉士国家試験に合格し、登録を行うことによって付与されます。しかし、資格の取得はあくまでも専門職で実践を行うための「スタートライン」であり、試験の合格が実践力を証明しているわけではありません。

そこで、高度な知識と卓越した技術を用いて、個別支援や他職種との連携、地域福祉の増進を行う能力を有する社会福祉士のキャリアアップを支援する

仕組みとして、実践力を認定する「認

定制度」があります。これが「認定社会福祉士」です。

認定社会福祉士は「社会福祉士及び介護福祉士法の定義に定める相談援助を行う者であって、所属組織を中心にした分野における福祉課題に対し、倫理綱領に基づき高度な専門知識と熟練した技術を用いて個別支援、他職種連携及び地域福祉の増進を行うことができ

る能力を有することを認められた者という」となっています。

分野は「医療分野」、「児童・家庭分野」、「高齢」、「障害分野」、「高齢分野」、「地域社会・多文化分野」の6分野となります。

今まで姫路市内に医療分野の認定社会福祉士はおらず、今年度の認定試験で姫路市内の医療機関では3名が認定されました。うち2名が三栄会で(ツカザキ病院1名・ツカザキ記念病院1名



計2名)、この2名はすでに認定医療
 社会福祉士(職能団体の認定資格)も
 取得しています。
 認定社会福祉士の主な活動内容は、「所
 属組織における相談援助部門で、リー
 ダーシップを発揮すること」、「高齢者

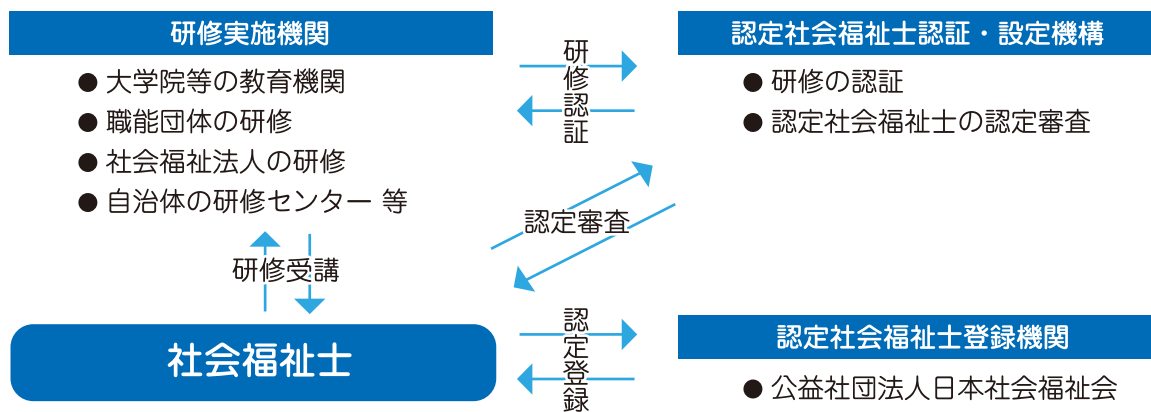
福祉、医療など、各分野の専門的な支
 援方法や制度に精通し、他職種と連携
 して、複雑な生活課題のある利用者
 に対しても、的確な相談援助を実践す
 ること」となっています。

また認定社会福祉士の役割は「複数の
 課題のあるケースへの対応」、「職場内
 のリーダーシップ、実習指導」、「地域
 や外部機関との窓口、緊急対応、苦情
 対応」、「他職種連携、職場内コーディ
 ネーターなど」があげられます。

地域包括ケア構想のもと、医療機関に
 おけるMSWの役割は非常に重要視さ
 れており、MSWのソーシャルワーク
 レベルは医療機関のレベルと比例する
 と言われるほど、病院の顔(窓口)と
 して認識されつつあります。

この度、ツカザキ病院・ツカザキ記念
 病院のそれぞれ1名のMSWが認定社
 会福祉士(医療分野)を取得しました。
 法人内連携もさることながら、三栄会
 の一員として、またMSWとしても自
 己研鑽に励み、地域医療に貢献できる
 よう精進して参りたいと思います。

認定制度のしくみ



北館オープンのお知らせ



長期にわたり工事に伴う騒音等ご不便をおかけし
 ておりましたが、2019年6月1日に竣工の運びとな
 りました。

北館ではMRI・CT・カテーテル検査室等の拡張を
 行い、救急医療の更なる充実を図ります。
 完成まで今しばらくご不便をおかけいたしますが、
 引き続きご理解ご協力を賜りますようお願い申し
 上げます。